

必須講座

～第1回～

◎18名の方に受講いただき、その内10名が全受講されましたので、修了証をお渡しいたしました。

令和6年  
6/29  
土

〈安全・事故〉  
**事故対策講習会**  
講師：NPO 法人 C・キッズ・ネットワーク 大森節子さん

スライドを見ながら、子どもにとって危険な物や場所を具体的に詳しく教えていただきました。

最近の危険な物としてマグネットセットや水で膨らむボールの誤飲やウォーターサーバーから熱湯が出る怖さを聞き、予防することの大切さを知ることができました。



令和6年  
6/29  
土

〈子育て支援サービスを提供するために〉  
**実際に活動を行うにあたっての手順やルール、注意事項について**  
講師：育児ファミリー・サポート・センター アドバイザー

ファミサポの制度や利用方法など手順やルール、注意事項を伝えました。また、「こんな時どうする？」の問いかけにファミサポで援助できるかできないかを隣の人と話し合ってもらいました。最後に、料金の計算方法も学んでいただきました。



令和6年  
6/30  
日

〈安全・事故〉  
**乳幼児の緊急救命講習会**  
講師：イタミライフキーパー 応急手当普及員 宮崎涼二さん 吉川潔志さん

乳児・幼児・大人の人形を使って、心肺蘇生法や AED の使い方を実習しました。日本では、119 番通報があってから救急車が到着するまで平均して約9分かかると言われていますので、いざという時のために、応急手当の知識と技術を身につけておくことが重要だと学びました。



令和6年  
7/1  
月

〈心の発達とその問題〉  
**こどもの障がいの種類や特徴について**  
講師：市こども発達支援センター 山本佳那さん

現在の障がいの考え方は、「出来ないからさせない」→「どうすれば出来るか?出来る方法をその子に合わせて考える」に変わっていることや、こどもの障がいの主な種類や特徴を具体的に教えていただきました。あすばる（こども発達支援センター）の取り組みや内容も詳しく知ることができました。



令和6年  
7/1  
月

〈心の発達とその問題〉  
**障がいのあるこどもとの関わり方について**  
講師：市こども発達支援センター 山本佳那さん

困ったこどもではなく、こどもがどうしてよいかわからず困っている。それぞれのこどもに合わせて具体的にわかりやすく伝えることが大切で、そのポイントを教えていただきました。

普段使っている物や次にする行動などを写真やカードにして見せること（視覚情報）も、こどもにとってわかりやすいと学びました。



令和6年  
7/2  
火

〈子どもの世話〉  
**こどもが快適に過ごすための必要なケアと環境づくりについて**  
講師：市母子保健課 保健師 西村琴音さん

0歳～6年生までの死因の上位を占めるのは不慮の事故（窒息・誤飲・溺れ・転倒・転落・やけど等）で、その予防法を年齢別に学びました。「危険な場所はどこでしょう?」のワークに取り組み、最近の子育て事情や母子手帳を見ながら発達に合わせたケアも教えていただきました。



令和6年  
7/2  
火

〈こどもの栄養と食生活〉  
**こどもの栄養と食生活について**  
講師：市健康政策課 栄養士 池田典子さん

様々な食中毒の種類と予防法やバランスよく食べることの大切さを詳しく教えていただきました。食べにくい食材にひと工夫する方法も学びました。普段食べているパンやアイスクリームや飲料水に含まれている脂質や糖分量をクイズ形式で学び、日々思ったよりも多く摂取していることに驚かされていました。



令和6年  
7/3  
水

〈保育の心〉  
**育児支援者としての心構えと親子との関わり方について**  
講師：市立北保育所 副所長 平岡恵さん

保育所では、以前は保護者に対して指導するという考えであったが、現在は寄り添う、共感するという考え方に変わっていることを知りました。預かる側は、①あらゆる危険を予測すること、親子にとって安心できる居場所・存在であること②子どもたち一人ひとりに人権があること。さらに一人ひとりと向き合うことが大切で、大人や国が子どもの権利を守る責任があることを学びました。

